



故木工權頭從四位下紀朝臣貫之
特旨ヲ以テ位階追陞セラル
故從四位下紀朝臣貫之

贈從二位

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治三十七年四月十五日

内

閣

内閣總理大臣伯爵桂太郎

明治三十七年四月一日

内閣書記官

内閣書記官

内閣總理大臣

木

内閣書記官長



故木工權頭從四位下紀貫之ハ歌道ノ衰頽ヲ
憂歎シ勅旨ヲ奉シテ古今和歌集ヲ撰定
シ遂ニ斯道ヲ振興シ作歌ノ準則ヲ後世ニ
貽シ文化ヲ助ケ國風ヲ正ス其功績最偉ナ
リ本年ハ貫之カ古今和歌集ヲ奏上セシ
ヨリ既三千年ナリトス依テ此際其功績ヲ
追賞ヒラレ贈位ノ榮典ヲ賜リ然ルヘシ
ト謚ム

御沙汰案

故木工權頭從四位下紀朝臣貫之

特旨ヲ以テ位階追陞セララル

故從四位下紀朝臣貫之

贈從二位

故從四位下紀貫之贈位正賞請願

恭惟フニ明治中興以來國家ニ功勞アル者ハ大抵
褒賞シテ遺ス所ナシ蓋シ忠孝ヲ崇尚シ學藝ヲ
獎勵スル道ニシテ全國臣民ノ感奮興起スル所以ナリ
謹テ按スルニ大同弘仁ノ頃ヨリ漢詩漢文ノ學漸ク盛
ニ延テ寛平延喜ノ際ニ至リテハ上下爭ヒテ之ニ趨キ
復國歌國文ノ學ヲ顧ミズ其衰契此ヨリ甚シキハ無
シ紀貫之深ク之ヲ憂ヒ大ニ之ヲ拯ハンヲ謀リ遂ニ
勅ヲ奉ジテ古今和歌集ヲ撰定シ始テ歌道ヲ振
興シ爾來歷朝勅撰ノ基礎ヲ定メタリ且此ヨリ

前未ダ斯道ニ關スル論說ヲ爲シ者アラザリシヲ貫
之ノ古今集ノ序ニハ人情ノ自然ニ本ヅキ斯道ノ蘊
奥ヲ發揮シ作歌ノ準則ヲ定メタリ又其文中ニ古ノ
歌人柳本人磨ヲ欽慕シ人磨ハ歌道ノ聖人ナリ
ト謂ヒ又歌道ノ天地ヲ動シ鬼神ヲ感ゼシメ人倫ヲ
化シ夫婦ヲ和スル等其ノ感化ノ大德ヲ説キ而シテ嗟
乎人磨既ニ歿シタレドモ和歌斯ニ在ラザランヤト慷慨
シ而シテ暗々人磨ノ後繼者ヲ以テ自任シタリ良ニ故
ルナリ

茲ニ舊記ヲ按スルニ享保八年六月八日人磨ノ千年

忌に相當セシヲ以テ特ニ神階正一位神號柳本大明神ヲ贈ラレタリ朝廷モ亦人曆ヲ重ゼラレシ一此
クノ如シ

昔者孔子文武周公ヲ慕ヒ古詩ヲ刪リ三百篇ヲ
選定シ世道人心ヲ正シ而シテ勸懲ノ政ヲ助ケタルが如
キハ恰モ貫之ノ人曆ヲ尊崇シ以テ古今集ヲ撰シ
其ノ模範ヲ後世ニ垂シ而シテ大ニ國風ヲ正シタルト相
似タル所アルナリ是ヲ以テ之ヲ考フルバ貫之ノ成績ハ人
曆ノ上ニ出デ、孔子ニ匹敵セリト云フベシ
加之貫之ハ創メテ國文ヲ以テ土佐日記等ヲ著シ

以テ後世國文ノ模範ヲ示シ國語ノ本體ヲ顯ハセル
が如キハ尤モ盛事ト謂フ可シ近時普通教育ニ國語
ノ科ヲ置クニ及ビテ全國ノ學校之ヲ以テ讀本トセザン
ハナシ其文化ヲ助ケ獨立ノ國體ヲ明カニスルニ於テ功績
更ニ大ナリトス

貫之ノ功績斯クノ如クナルニ其生時官ハ木工權頭ニ過
ギズ位ハ從四位下ニ止マリキ而シテ後學賀茂真淵本居
宣長等ハ貫之ノ遺書ニ據リテ其精神ヲ祖述シ國文
國語ノ學ヲ振興シ國家ヲ裨益シタル功又斯カラズ
朝廷曩ニ之ヲ追賞シテ此ノ二人ニ贈正四位ノ榮典ヲ

授ケラレキ然レドモ此ノ二人ノ如キハ貫之ノ啓發ニ由リテ
其功ヲ奏シタル者ナルニ却テ其位階ヲ貫之ノ上ニ置カレ
タルハ縱令贈位トハ云ヘドモ本末ノ權衡頗ル其當ヲ得
サルノミナラズ學藝ヲ獎勵シ世道人心ヲ正ス上ニ於テ
亦憂フル所ナシトセズ

冀クハ人麿ノ神階及ビ真淵宣長等贈位ノ例ニ沿
リ之ヲシテ追賞ノ恩典ニ與カラシメバ豈啻貫之ノ靈
地下ニ感泣スベキノミナラシヤ天下後世ノ斯道ニ從事スル者
ヲシテ益々感奮興起セシメ國家ノ爲ニ裨益スル所多カ
ルベキヲ信ジテ疑ハザナリ

殊ニ本年四月十八日ハ貫之が古今和歌集ヲ撰了奏
上セシ延喜五年四月十八日ヲ距ル滿一千年ナリトス依リテ
此機ヲ失ハズ至急特別ノ御詮議ヲ以テ貫之ニ從
二位ヲ贈ラレ候様御上奏成下サレタリ此段切ニ奉
請願候也

明治三十七年四月 日

男爵渡邊千秋
男爵高崎正風
男爵細川潤次郎
子爵田中光顯

内閣総理大臣伯爵桂太郎殿